学びを深め成長誓う

ニュース専修
●「専修大学」ホームページ●
http://www.senshu-u.ac.jp/
毎月１回15日発行
（定価一部90円）
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819（直）

春の陽光に祝福され、晴れやかな笑顔の卒業生

2016年度卒業式・学位記授与式

2016年度専修大学卒業式・学位記授与式が3月22日、東京都千代田区の日本武道館で行われた。晴れの日を迎えたのは学部卒業生、大学院修了生、法科大学院修了生合わせて4279人。専大で鍛えた精神力と培った知力を糧に、新たな一歩を踏み出した。

式では各総代に学位記を授与。学術及び体育の分野で優れた成績を残した学生に与えられる川島記念賞では47人に賞状とメダルが贈られた。

佐々木重人学長が「皆さんはそれぞれの道のプロにならなければいけない。社会変化に対応するためにも、広い視野から現状を正確に把握し改善に向けて努力する『専修スピリット』を持ち続けてほしい」と激励。日高義博理事長が「自分にとって一筋の道を進んでほしい。専修大学の明日の姿を開き、社会知性の開発を実現するのは皆さんです」との言葉を贈った。小宮多喜次校友会長、卒業10年目の高尾真人さん（平19経営）の祝辞が続いた。

卒業生・修了生を代表して入山愛さん（人間科学部）が謝辞。障がい者福祉を研究し「どんな困難にも前を向き、目標のために努力すべきだと学んだ。今後私も周りの人々に力を与えられる存在になりたい。仕事や社会への学びを深め、大学時代の自分よりさらに成長していきます」と決意を語った。

当日は多くのご父母・保護者が武道館を埋め、巣立ちの時を見守った。穏やかな春の陽光が降り注ぎ、前日に開花宣言が出たばかりの桜が、新生活へ踏み出す卒業生・修了生を祝福した。

（3面に写真特集）

力強く決意を語った卒業生代表の入山愛さん

主なニュース

川島記念賞受賞者／大学院・法科大学院総代……❷
教員17氏が定年退職　最終講義とメッセージ……❺
「融合領域科目」2年間の講義を基に新書出版……❻
新しい学びの拠点　生田2・3号館が完成……❼
ネット情報2年次「フィールドミュージアム」……❽
石巻専修大学 学位記授与式／川島記念学術賞……❿

式辞　佐々木　重人学長

今日の自分を超える努力を

本日、学部・大学院の諸課程を修了する皆さん、ご卒業、そして学位の取得おめでとうございます。また、ご父母・保護者の皆様には、ご子弟を物心両面で支えてこられたことに対し、ねぎらいの意を表しますとともに、心からお慶びを申し上げます。

大学卒業は職業人としてスタートとなります。皆さんは社会に実質的に貢献しなければならない。仕事での勝負の時を迎えたのです。ただし仕事で勝負する相手は、自分自身です。今日の自分を超えるために明日の自分に何が必要か、そのための努力が重要です。ごく自然に当然のチャレンジを日々繰り返すことで、自分自身を磨き上げていくのがその道のプロになるプロセスです。皆さんは、それぞれの道のプロにならなければならない。そして、プロの技や能力は、広く社会貢献に生かされるべきものと心に刻んでください。それが「専修スピリット」、すなわち「社会知性の開発」の目指すところです。

今後10年は、AI（人工知能）がビジネスの世界で本格的に利用されるなど、社会的インフラが大きく変わると言われています。変化に対応するために、広い視野から現状を正確に把握し改善に向けて努力する姿勢を求める「専修スピリット」を持ち続けることが役立つと考えます。

これは、専修大学自体にも当てはまります。専修大学のライバルは、今の専修大学です。明日の専修大学は、今の専修大学を超えるための努力により形づくられるのです。

今、専修大学は2020年の創立140周年に向けて、全学を挙げて大改革に取り組んでおります。その成り行きを今後はOB・OGとして応援していただければ幸いです。

最後に、今後の皆さんの職業人生が恙なく、豊かなものとなりますことをお祈りして、学長としての式辞とさせていただきます。

（要旨）

祝辞　日高　義博理事長

可能性信じそれぞれの道へ

本日晴れて学位を取得された皆さん、おめでとうございます。これまで学業を支えていただいたご父母・保護者にも深く感謝申し上げます。

皆さんが入学した頃は東日本大震災の影響が色濃く残っていました。神田・生田の両キャンパスの整備が進み、勉学環境が新たになっていくのを目の当たりにしながら卒業を迎え、感慨ひとしおだと思います。

日本の大学は今、大きな転換期に来ています。18歳人口が減少するなかでグローバル化を迎え、国境を超えて大学人を輩出することが大きな課題です。私学には多様な人材を育成する役割があり、日本の骨格・構造を柔軟に支える人材を育てる役割はこれからますます強くなるでしょう。

47年前に私もこの日本武道館で専修大学を卒業しました。当時の総長、川島正次郎先生が述べられたのは「泥にまみれた著名人になるよりも、世の人の地の塩になりなさい」ということでした。「地の塩になれ」というのはキリストの言葉ですが、生きていくうえで必要不可欠な塩のように、つまり「欠いてはならない人材になれ」ということです。

皆さん、これから自分が何をなすべきか、心に秘めたものがあると思います。自分の可能性を信じ、自分の感性を信じ、それぞれの道で頑張ってください。人から見れば曲がりくねった道でも、自分にとっては一筋の一本道です。歩むのも退却するのも自分の心次第です。意志あるところに道は開かれます。

専修大学の明日を開くのは皆さんです。社会知性の開発を実現するのも皆さんです。10年間は後を振り返る余裕はないと思いますが、自分の目標に到達したら大学を振り返ってみてください。皆さん自身が専修大学をつくっていくという決意を胸に、ここ武道館から飛び立っていただきたいと思います。皆さんの活躍と貢献を祈念いたします。

（要旨）

「センディ」
LINEスタンプ配信中